

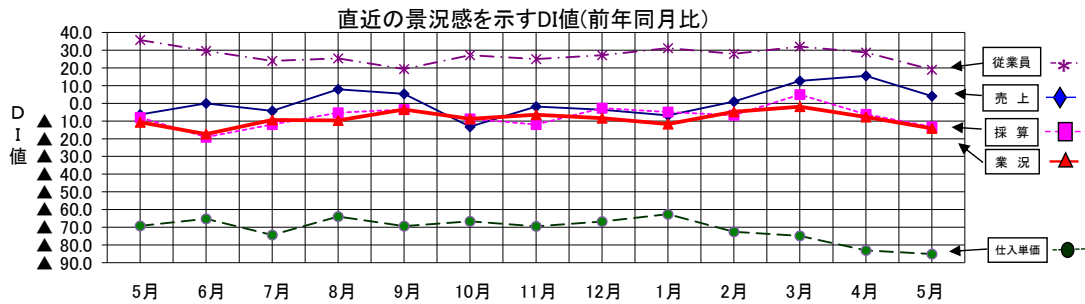
【5月の概要】

直近の景況感は全体的に悪化  
中東情勢を背景にコスト負担と供給不安が強まる

直近の景況感を示すDI値では、「売上DI」が前月の15.5から4.1へ大幅に低下し、プラス幅が縮小した。「採算DI」は▲6.2から▲13.2へ、「業況DI」は▲7.8から▲14.1へ、「仕入単価DI」は▲83.0から▲85.1へそれぞれマイナス幅が拡大した。「従業員DI」は28.7から19.0へ低下し、人手不足感が緩和の動きがみられた。

向こう3か月間の先行き見通しでは、「売上DI」が▲3.9から▲10.7へ、「採算DI」が▲19.4から▲21.5へ、「業況DI」が▲14.0から▲22.3へ、「仕入単価DI」が▲63.6から▲69.4へ悪化しており、コスト面を中心に厳しい状況が続くとみられる。「従業員DI」は24.0から19.0へ低下し、人手不足感が緩和する見通しにあるものの、人手不足の状況は継続している。

コメントでは、中東情勢の長期化に伴う燃料価格の上昇や石油関連製品の価格高騰・調達難を指摘する声が業種を問わず多くみられた。製造業では、原材料の調達が困難になり、生産活動に制限がかかることを懸念する声もあった。一方、小売業では供給不安を背景とした購入の前倒しの動きが一部で売上を押し上げているとの指摘もみられた。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数: Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)  
※従業員=(不足)-(過剰)

	2025年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	2026年	5月											
売上	▲	6.3	0.0	▲	4.3	7.9	5.3	▲	13.2	▲	1.9	▲	3.7	▲	6.8	1.0	12.6	15.5	▲	4.1						
採算	▲	8.0	▲	19.1	▲	12.0	▲	5.3	▲	3.5	▲	8.8	▲	12.0	▲	2.8	▲	4.9	▲	6.7	4.9	▲	6.2	▲	13.2	
業況	▲	10.7	▲	17.4	▲	9.4	▲	9.7	▲	3.5	▲	8.8	▲	6.5	▲	8.4	▲	11.7	▲	4.8	▲	1.9	▲	7.8	▲	14.1
仕入単価	▲	69.2	▲	65.2	▲	74.4	▲	64.0	▲	69.3	▲	66.7	▲	69.4	▲	66.8	▲	62.6	▲	72.6	▲	74.8	▲	83.0	▲	85.1
従業員	-	35.7	-	29.6	-	23.9	-	25.4	-	19.3	-	27.2	-	25.0	-	27.1	-	31.1	-	27.9	-	32.0	-	28.7	-	19.0

- ・前月比でプラス幅が減少(改善)したDI値: 従業員▲9.7ポイント(人手不足感が弱まった)
- ・前月比でプラス幅が減少(悪化)したDI値: 売上▲11.4ポイント
- ・前月比でマイナス幅が増加(悪化)したDI値: 採算▲7.0ポイント、業況▲6.3ポイント、仕入単価▲2.1ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
3月回答	▲ 3.9	▲ 8.7	▲ 11.7	▲ 60.2	29.1
4月回答	▲ 3.9	▲ 19.4	▲ 14.0	▲ 63.6	24.0
5月回答	▲ 10.7	▲ 21.5	▲ 22.3	▲ 69.4	19.0

- ・前月比で見通しが改善したDI値: 従業員▲5.0ポイント(人手不足感が弱まった)
- ・前月比で見通しが悪化したDI値: 売上▲6.8ポイント、採算▲2.1ポイント、業況▲8.3ポイント、仕入単価▲5.8ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	建設資材	ゴールデンウィーク明けの受発注本格化に期待しているものの、ホルムズ海峡封鎖による石油製品の停滞で、ガソリン・軽油や塗料等の入荷が困難になることが懸念される。
	総合建設	イラン情勢の長期化に伴う石油関連資材の価格上昇や資機材手配の遅れによる工期延伸が懸念される。有資格者の配置や専門業者の確保も引き続き課題となっている。
製造業	家具	接着剤が入手できないため、あと半月で在庫が枯渇して製造が出来なくなる。主力の首都圏からの受注が、工事の遅れや什器調達の見直しで激減の恐れがある。
	菓子	イラン情勢の長期化で原材料の調達が苦勞しており、新製品の企画もいったん棚上げせざるを得ない状況にある。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁も難しい状況が続いている。
卸売業	計量器	イラン情勢の影響から、一部消耗品(塗料、グリスなど)の入手が困難または価格上昇がみられ、例年通りの景況感では進められないのではとの予測がある。燃料価格についても同様の上昇が予想される。
小売業	自動車	原材料高騰に加え、ホルムズ海峡閉鎖の影響でオイルやシンナーなど事業継続に必要な商品の不足・欠品が生じており、この状況が続く場合は業績への影響が懸念される。
	ホームセンター	中東情勢の影響で早めに購入する動きが活発となり売上は好調に見えるものの、石油由来商品を中心に仕入れ制限が次第に強まっており、先行きは不透明な状況にある。
サービス業	機械レンタル	中東情勢悪化に伴う各資機材の価格高騰及び供給量の不足が重なり、今後の業務運営にマイナスとなる見通し。
	タクシー	運賃改定の効果で前年比の総収入は増加しているものの、燃料費の上昇や塗料不足による車両修理への影響など、懸念すべき事項がある。

※本コメントは、調査結果の一部を編集・要約したものです。内容の趣旨を損なわない範囲で表現の調整を行っています。

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 5月分 各業界からのコメント

<b>建設業</b>
直近は注文済分で対応可能も、イラン紛争長期化に起因する、数ヶ月後の石油関連製品・資材、間接費（運賃、動力）の上昇による採算低下、及び資機材手配が出来ず、工期延伸等が懸念される。社員増員は継続的に実施出来ているが、有資格者の配置が整わない中では、人員不足による受注機会逸失も未だ改善途中、同様に専門業者確保も継続課題。金利上昇はいったん見送られたが、調達コスト負担増も継続課題。
中東情勢および東南アジアの製造機能の状態を受け、燃料およびナフサ由来の建設資材の価格高騰や供給制限が常態化している。
4月入社の新入社員の研修を継続中であり、エンゲージメント醸成に注力している。
材料費高騰、人出不足などの問題はあるものの、工事の件数は多く物価高の状況も踏まえて金額をいただいているので、業況は悪くはない。
ゴールデンウィークが終わり工事の受発注が本格化するものと期待されますが、ホルムズ海峡封鎖による石油製品の停滞により原材料の入手が困難にならないか心配です。直接影響するガソリン・軽油をはじめ、塗料関係やプラスチック製品が入荷されない間接的に工程の停滞などで作業停止となるかもしれない恐れがあります。
<b>製造業</b>
レアメタル（タングステン他）の急騰によって、切削工具、機会刃物類の値上がり幅が顕著である。この先がどうなるか予想がつかない状態。
イラン情勢などを背景に仕入価格の上昇傾向がみられ、今後一層上がることが予想される
イラン情勢の長期化で、原材料特にフィルムやラップの調達に苦勞する。
包材の関係で新製品の企画はいったん棚上げせざるをえない。
値上げに伴う価格転嫁は厳しそう。消費者の財布のひもが固くなっているのを
ひしひしと感じる。この秋に予定されている最低賃金の急な上昇についていけるか心配になる。
接着剤が入手できない為にあと半月で在庫が枯渇して製造が出来なくなる。主力の首都圏からの受注が、工事の遅れや仕器調達の見直しで激減の恐れがある。
塗装関連で生産納期トラブルが続いてきていてこの先心配である
5月から鋼材の原材料も高騰し、ステンレスは平均10%程高くなる。当然価格転嫁はしないとイケないが、弊社のような中小企業は現実的にこれからで時間もかかる。国の補助金など一つのこと長年一貫してやっている企業にも支援すべきでないでしょうか。
現在、地政学リスクによる影響はそれほどない状況ではありますが、特に塗装に関係するシンナーの調達について入手が困難になる懸念があります。又、ナフサによるプラスチック製の部材やその他ビニール袋など価格の上昇、入手困難な状況が想定されており、予断を許さない状況です。
<b>卸売業</b>
例年のことではありますが、春季賃上げの影響は直ちに価格転嫁できる要因ではなく、周囲や顧客の景気動向を見ながら、少しずつご協力をお願いする環境と見えています。
イラン情勢の影響から、一部消耗品（塗料、グリスなど）の入手が困難または価格上昇が見られ、例年通りの景況感では進められないのではとの予測があります。燃料価格の上昇予想も同様のことが言えそうです。
アメリカ・イラン戦争が大きく影響し予測不可能である。4月の業績は非常に良かったが5月連休を境に落ち込んでいる。4月5月の合算で判断しなければならぬ。
公共資材卸売りは昨年度末（3月）が過ぎ、新年度早々商いは、静か。
<b>小売業</b>
各メーカーからの値上げ通知や商品供給が滞る連絡やお願いばかりで、対策が立てられない待機状態が続いています。
過去にあった時の石油ショックと違い、政府が石油を確保しているのでパニックには今のところならず経済活動が出来ていますが、買いためするようなことがなければ順調に経済活動ができと思っています。最近、印鑑関係の店が減ったためか、需要が増えています。
原材料高騰だけでなく、ホルムズ海峡閉鎖の影響を受け、オイル、シンナー、マスキングテープなど事業継続に必要な商品が不足または欠品となっている。この状況が続く場合、好転していくとみられた業績は反転し業界自体が低迷していく。
中東情勢の影響が非常に大きい。今はプロが仕事で使用する商品を中心に、早めに購入する動きが活発で、売上事態は良く見えている。しかし、石油由来商品の仕入れの制限が次第に強くなってきている。また、接着剤や接着剤を使用する商品等にも同様に制限が強まっている。今後、さらに包装材にも影響が出ると予測されるため、ますます制限が強くなるとともに、並行して仕入価格が上がると想定される。在庫の不安もあれば、解消した時の売上の跳ね返りも心配である。先行きは不透明である。
<b>サービス業</b>
中東情勢によるエネルギー価格高騰の経営への影響を懸念している。
消費税率の変更について議論が進められているが、その状況によっては秋以降に商談が増える可能性があるため、注視していきたい。
前年あった売上が本年無いため（研修実施件数減）
中東情勢悪化に伴う各資機材の価格高騰及び、供給量の不足が重なり今後の業務運営にマイナスとなる見通しです。
GWは遠出の旅行などが重点的になり、市内での人流には期待できない
ホルムズ海峡の閉鎖が燃料価格を異常に高く引き上げている
車燃料の充填制限が掛からないかが心配の種
諸物価高騰により採算が取れない
物価・原料高騰は更なるもので、世の中大変な時代！そこをどう乗り切るかがトップの役割かな。いつの時代も乗り越えてきた。お互いに情報共有しあいながら前に進みましょう。
今後の原油関係で資材の在庫が手配困難になりつつある。
あらゆるものが値上がり続きで終わりが見えないため、価格転嫁を初め対応と先行きが不安である。
中東情勢悪化に伴う石油関連製品の値上がりや供給不安から、購入の前倒しや買いためが全国的に波及した影響で、4月としては久しぶりに物量増となった。
運賃改定の効果から前年比の総収入は増加。前月比は例年通り減少。燃料費が上昇傾向であるほか、塗料不足から車の修理に支障が出るのではないかなど、懸念すべき事項がある。